

第8号

【編集発行】
栃木市文化活動協議会
住所：栃木市万町9番25号
栃木市教育委員会
事務局文化課内
TEL：0282-21-2496
FAX：0282-21-2690
【題字】田中 曉亭氏

文協とちぎ

大平の美しい四季



栃木市大平文化会館ホール緞帳には、太平山からの美しい眺望が描かれています。春の桜、夏にはあじさい、秋には山々を鮮やかに染める紅葉、そして冬にも色を変えることのない力強い松の木、大中寺周辺に多く残る杉の古木がそびえ、大平の豊かな自然を表しています。

文化活動の変節期に対応する



栃木市文化活動協議会

会長 大塚 昌峰

本年度は栃木県文化振興大会が栃木県下都賀西部担当で具体的には栃木市・壬生町の合同で行われようとしています。合議を重ねて、舞台と展示での部門ごとに企画立案、当日は駐車場から会場案内受付等々、多くの会員の協力を得て進められました。

この号が発行される時には既に終了ということになっていることでしょうか。とりわけ栃木市教育委員会文化課の事務局担当者には大変なお骨折りをいただき心から感謝申し上げます。

大きな大会を終えてはつとしたところではありますが、本市の文化活動にとって当面する大きな課題は栃木市栃木文化会館（とちぎ岩下の新生姜ホール）の改修です。

すでにご承知通り、令和8年度から改修工事にかかり令和10年12月まで約3年間会館全体が使用不能となることです。その間の文化活動の場所をどう確保するか？

各団体で苦慮していることと拝察しておりますが、従来のままに実施することは多くの団体にとって困難でしょう。となれば、規模の縮小や実施内容の分割、時期の変更等々工夫、検討しながら3年間を見越して乗り越えなければなりません。こうした動きは大平、藤岡などの地域も同様です。近い将来の改修に伴う統合が予定されています。施設設備が老朽化してやむなしの思いもありますがどうせやるならよりよい物を、と要望しています。

ご支援ご協力をお願いいたします。

令和6年度 栃木市文化活動協議会表彰受賞者
功績賞 上村 和久様（岩舟文化協会）

この度の受賞、誠にありがとうございます。

岩舟文化協会

令和6年度の文化協会は39団体会員約348名で構成されています。若干ですが新規加入団体も増えています。協会としても更に参加促進に努めてまいります。

*文化祭開催

今年度の文化祭は、コスモスホールが改修工事により利用できないため、展示は、公民館と体育館を使用し、10月26日(土)・27日(日)に開催しました。

公民館では、園児の作品、小中学生による作品、書道などの素晴らしい作品が展示されました。体育館では絵手紙、パッチワーク、写真、陶芸、染め工房など力作が展示されました。



展示 絵手紙

岩舟ハーモニカの演奏



第61回 栃木市岩舟文化祭

今年の演芸大会は、藤岡文化会館をお借りしての開催となりました。11月9日(土)には、カラオケ、民謡、二胡、ハーモニカの発表でした。いずれも素晴らしい演奏でした。11月10日(日)は午前中、郷土芸能5団体の力強い演奏があり観客に感動を与えました。午後の部は、舞踊、フラメンコ、民謡、オカリナ、カラオケ、尺八、よさこいなど多彩な演目での発表があり、出演者の熱演、熱唱に会場から大きな拍手がありました。最後は、五家英子と皆で楽しく唄おう会の皆さんの歌と踊りで会場が大いに盛り上がりフィナーレとなりました。



唄おう会の踊り

栃木文化団体連絡協議会

栃木の「山車」

栃木の秋祭りには、二年に一度「山車」が巡行しています。

令和6年度はこの巡行の年にあたりました。

11月2日・3日・4日の三日間のうち初日は市内の全小学校から3、4年生2千人余の参加があり、元気なよい声が蔵の街にこだましました。中日が雨で残念でしたが、最終日は晴天に恵まれ、市内外から多くの見物人を集めました。

江戸型山車という形式の山車は関東近県に分布していますが、とりわけ栃木の人形山車は装飾、彫刻等々保存状態もよくて多くの方から賞賛されています。これまで保存、伝承に努めてきた先人の努力に感謝しつつ、将来にわたって受け継ぐ使命を感じています。

現在巡行している山車は9台。いずれも栃木市の文化財として指定されています。また、これらを常設展示する山車会館があります。豪華絢爛な山車の様子が



間近に見られるとともに、栃木市全域の自然や歴史、観光名所、物産、季節の移ろいなどを紹介する映像も流れます。非日常空間を味わうのにオススメです。是非、足をお運び下さい。



秋の都賀文化祭におきましては、10月12日から11月3日まで、都賀公民館ロビー・講堂や都賀体育センターにおいて「展示」「歌謡」「芸能」「音楽」の4部門全て開催する事ができました。音楽部門の参加者は、一年間の成果を発表できた事に、たいへん満足を感じていました。今後の行事に令和7年3月8・9日の「とちぎ文化のつどい」があります。



都賀文化協会

ですので、その発表に向けて今から練習に励んでいきたいと思っています。



平穏な日々突然やってきたコロナ禍。私達の生活は様々なことが変化していきました。が、コロナ禍でも変わらないこと、それは人は感動する心を持っているということです。文化芸術活動が思うように出来ない中でも、感動を味わいたいという思いは繋がり、灯し続けた文化の灯：今年も西方文化祭で輝きました。



まずは、会場設営において、今年度は業者の手を借りず、会員を中心としたボランティアで、準備から片付けまで、延べ30人を超える方が協力してくださいました。息の合った手際よさに、文化祭を皆で盛り上げようとする思いを感じました。そんな思いが詰まった会場で、文化祭が始まりました。一階ホールにはフォトクラブ・ハンドメイド・墨彩会、二階には小中学生の作品が展示され、その一つ一つが見る人の心を魅了しました。奥に進むと和服姿で抹茶がふるまわれ、落ち着いた雰囲気がとても心地よい空間でした。

文化祭2日目は、栃木市ふるさと大使でもある古今亭志ん丸様をお迎えしての記念公演を開催しました。120名を超える方が、笑いあり驚きありの落語の世界に引き込まれ、たくさんの笑顔が溢れました。文化芸術に触れ、感動する心を持ち続けること、文化の灯をこれからも灯し続け、益々輝かせていきたいと思っています。

文化の灯を輝かせて

西方文化協会

大平文化協会

大平町無形民俗文化財指定 新(あらい)の神田五段囃子 〜新・神田囃子保存会〜

昭和54年に大平町無形民俗文化財に指定された、新(あらい)の神田五段囃子の由来は、明治時代の中頃、壬生町安塚から師匠を招いて、時の若者たちが、習い覚えたと、伝えられています。

内容は、五人囃子に合わせての獅子舞、ヒョットコ、おかめが、面白く踊ります。

保存会では、多方面で依頼や指導を承り、小学校や介護施設訪問、地域の行事参加、大平南中学校や岩舟



中学校等訪問して、郷土文化学習として、五人囃子・ヒョットコ踊りを、優しく生徒たちに教えています。

更には、栃木県郷土芸能大会や栃木市の秋祭り、地元の文化祭等、精力的に活動しています。

そして、郷土の伝統文化の継承にあたり、地域に於いて、メンバー募集を定期的に広報して、宣伝活動を行っています。

練習は、大平町新(あらい)農村センターにて毎週水曜日(19時30分)から約90分間、練習しております。是非、遊びにお越しください。お待ちしております。

新・神田囃子保存会
会長 上野 和男

藤岡文化団体連絡協議会

文化祭を終えて

10月27日(日)・11月2日(土)・3日(日)、文化祭を開催しました。11月2日は、台風21号が温帯低気圧となり、雨がたくさん降り心配されましたが、雨の中来場してくださった方には、感謝です。3日は晴天に恵まれ、来場者も増えなかなかの賑わいでした。カラオケ部発表は、愛好者の方には、人気があつたようで楽しい時間を過ごすことができたとの声も聞かれました。

展示部門では、新しく加入した編み物は、女性来場者には人気の様子でした。ステージ部門でも、皆さん日ごろの練習の成果を発



揮されている様子が、伺えました。また、来場者を楽しませてくれるような配慮もされとても感激しました。ただ、出演者、来場者共に若い世代が、とても少なくこれからの文化継承には、不安が残りました。若い世代には、何か興味がある事に探求心を持って取り組んでいただければと思います。他人に頼まれたから、ただ誘われたからといった理由ではなく積極的に出来ないかと思えます。しかしながら個人の考えは、それぞれに異なりますので強制もできません。

これから私たちはどのようにしたら文化継承が、うまくされていくか、課題となると考えます。人口減少・少子化の問題も絡んできます。明るい未来のために何が出来るのか、何をすればよいか、一層考えさせられました。

